

実施主体、事業名などの概要

- ・事業名：山都の有機農業をとおして体験・交流する「たべる-まなぶ-つながる-そだてる」の良好な環境関係人口創出プロジェクト
- ・実施主体：株式会社 山都竹琉 ・対象地域：熊本県山都町 ・対象とする良好な環境：自然共生サイト

地域の現状・課題

- ・農業を中心とした生活環境、自然環境や伝統、歴史文化を維持保全しており、これらの維持保全のために様々な活動、課題解決に取り組んでいるが、**インバウンド観光の受入体制のみならず、国内における農産物を通じた都市農村交流と魅力発信も不十分。**
- ・販路開拓や地域住民及び事業者の観光受入体制構築が必要。

目指すべき姿（中長期ビジョン）

有機農産物の食料産地のみならず、地域における過ごし方の付加価値向上に資する観光コンテンツづくりに取り組み、**良好な環境、有機の里、オーガニックライフスタイルのまち山都町**として、**社会や環境にやさしい行動そのものに価値を見いだす滞在型体験を増やし**来町者の増加と共にSDGsのまちづくりにつながることを目指していく。

実施項目（事業内での取組）

- ①ターゲットに向けた販路構築：多言語化ツール整備と実装
- ②**インバウンド農泊の実証**：モニターツアー実施
- ③受入体制構築：**モデルルート開発、ガイド養成、民泊参画施設の拡充**
- ④海外におけるエコツアー現地調査：**大使館へのモニターツアーPR**

祝！通潤橋 国宝指定



R8：コンテンツの磨き上げ

実施項目（事業内での取組）

- ①地域ストーリー調査事業：認知度向上
 - ・東京都内学校への事業PR
 - ・多言語化ツール整備着手
 - ・インバウンド対応に向けた食開発
- ②受入体制構築：モニターツアー、ガイド養成、民泊参画施設拡充の検討
- ③海外におけるエコツアー現地調査・PR

R9：販売促進

（事業期間終了後）



実施項目（自走化）

- ①ターゲットに向けた販路開拓：企業や学校など環境に注力する団体に向けた**エコスタディーツアーの外販（国内外対象）**
 - ・多言語化ツールのブラッシュアップ
- ②体験コンテンツ拡充とガイド養成、民泊施設の更なる拡充
- ③大使館等へのモニターツアーPR

R7：コンテンツ造成

対象となる良好な環境の概要

- ・九州のど真ん中の中山間準高地、総面積の7割が山林・原野、田・畑2割、人口1万千人、過疎化が進む農業と林業が基幹産業の典型的な中山間地域。
- ・50年以上にわたり有機農業に取り組む地域、**有機農業日本一の里**、日本最大級の石造りアーチ水路橋の**国宝：通潤橋**をはじめ、**棚田百選2力所選定**、**人形淨瑠璃「清和文楽」**、**250年続く八朔祭**など、**日本の原風景と農村文化が残されている稀有な地域**。
- ・**1986年から37年間に及ぶ子供たちとの自然観察会が継続され（環境省：令和5年度 大気・水・土壤環境保全活動功労賞受賞）**、適切な手入れや管理をしながら環境にやさしい農林業、有機農業の里を牽引。**2023年、自然共生サイトに「Present Tree in くまもと山都」が認定された。**

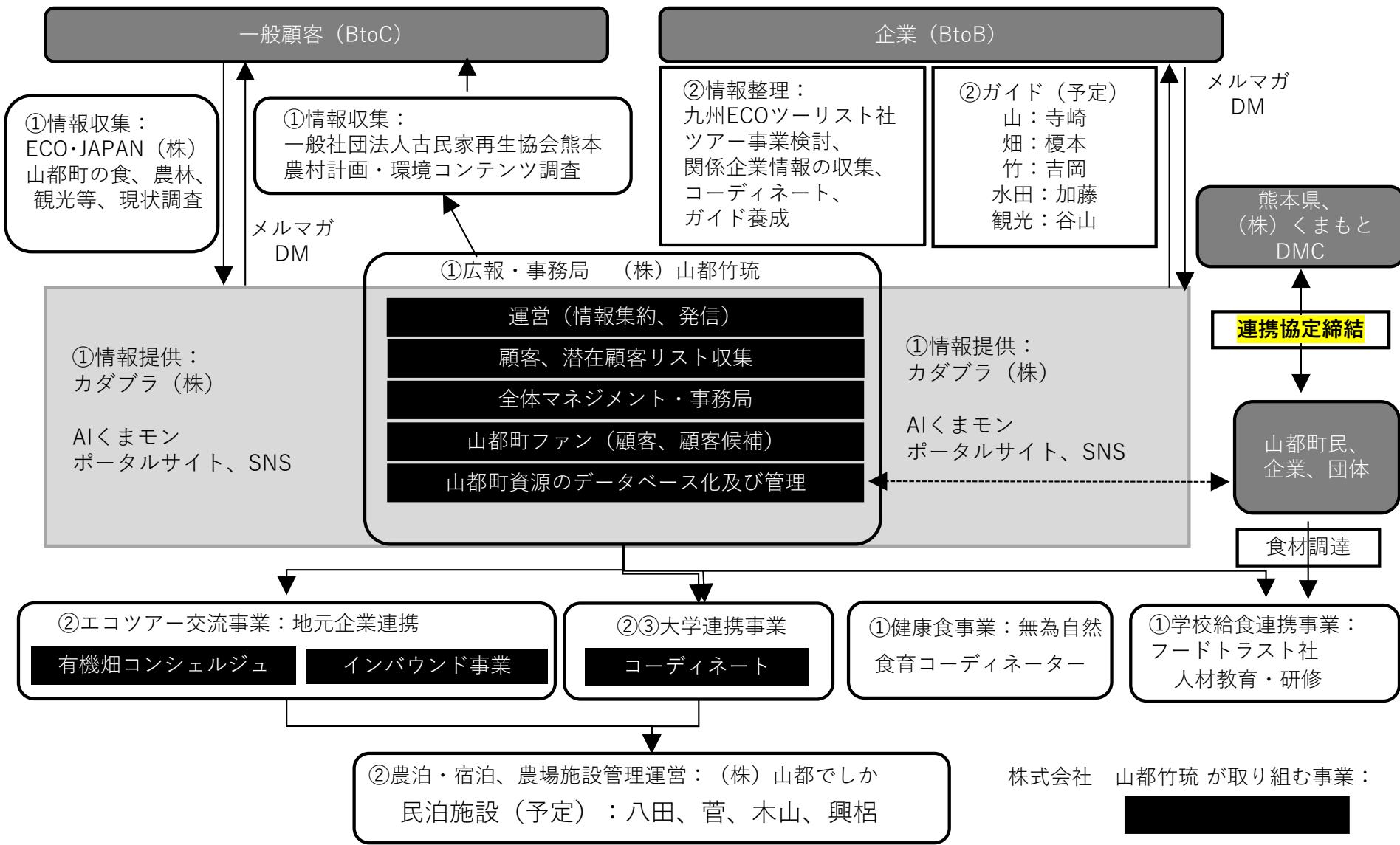


良好な環境に係るストーリー

山都町の原風景保全と生物多様性の意識を育てる（たべる、なまぶ、つながる）地域ストーリーの構築

- ・生物の源となる命の水を軸として、**国宝：通潤橋建設の歴史をひもときながら、通潤用水の源流域が郷土史伝承会の資料によって、当該地域が稻作文化の発祥の地（天照大御神の伝承）であることが判明し、水の流れに伴う文化歴史に新たな光が見え始めている。**また、希少な動植物自体が良好な環境を紡いできた生き証人と言え、無農薬の田んぼにはゲンゴロウやタガメなど水生生物が多く生息し、希少な野草薬草が群生し、日本カモシカが生息するという稀有な自然共生エリアである。
- ・国宝の通潤橋を潤す源流域の田んぼに入り、竹資源を活用した「かぐや米」の羽釜ごはんを**食べる**、治山治水や水の流れの仕組みを理解し稻作体験を通じて**学ぶ**、歴史と文化と大地との**つながり**、都市と農村との人の**つながり**を実感しながら、日本一の有機農業の産地を食べ支え**育てる**、日本の原風景を遺しネイチャーポジティブの芽生えを**育てる**「**食べる、学ぶ、つながる、育てる**」を軸にしたモデルルートの観光開発に着手する。

実施体制（図示）



【R7年度取組】

①地域ストーリーの確立【済】

- ・地域ストーリーの整理・検証・磨き上げ・認知度向上のための調査事業
- ・農的暮らし情報発信体制：オーガニックライフスタイルEXPO東京（10/2-10/4）に出店、事業PR、モニターツアーハギビカケ、**民泊時の食事提供を想定したレシピ開発試食を実施。**（別紙）

③海外大学企業販路拡大【済】

- ・海外工コツア現地調査、バリ島の世界文化遺産の棚田、台湾教育ファーム視察
- ・インドネシアのナショナル大学、国立台北科技大学、高雄の樹徳大学を訪問、工コツアの動向調査を実施（10/26-11/3）

①東京都内学校事業PR【実施中】

- ・オーガニックライフスタイルEXPO東京、有機農業日本最大10周年目バンクに出店、**都内学校給食関係者と打合せ実施。**
- ・東京都内の学校給食への事業PR 2回（年内年明け各1回）

①多言語ツール整備【実施中】

- ・多言語対応の情報発信ツール整備、コンテンツ作成着手
- ・モニターツアーガイド養成の受入体制構築、スルーブロットガイド人材の掘り起ことリスト化（山：寺崎、畑：榎本、竹：加藤）

特に工夫した点・取組成果

- ・有識者アドバイスを受け、地域ストーリーの**強みや得意な分野**を伸ばすべく販路開拓に向けてターゲットの絞込み。**ファミリー、企業、コアファン**・有機農業日本一の取り組み、水源地工コツア紹介、清流産の有機玄米とレシピ開発した即席玄米リゾットを試食。**ドイツからの留学生や台湾の方々が興味を示し、手ごたえを実感**

特に工夫した点・取組成果

- バリ開催の環境学会へ参加、事業PRとともにインドネシア内の大学・民間事業者と交流。台北科技大学の王教授の紹介で教育ファームや野鳥観察専門ツアーカンパニー会社を訪問、トレンド確認と**台湾・熊本との双方向の事業協力**に向けた話ができる。次年度に両大使館へのインバウンド誘客強化を検討予定。

特に工夫した点・取組成果

- 良好な水やお米（有機玄米）について環境への意識が高く、世田谷区の住民からは学校給食の連携強化の強い要望を受け、第2のふるさと構想（ふるさと住民登録制度）やモニターツアーハギビカケたところ、好印象。**

今後のスケジュール

地域調査で収集した素材やコンテンツを多言語化・情報発信を可能にするツールを年内に開発、年度内にプロジェクト、次年度に向けた情報発信体制を整備。（別紙）

10/11-10/12に留学生を対象にモニターツアーハギビカケを実施し、イバウンド受入民泊1件を拡充したが、多言語ツールの必要性を実感。

R7年度のゴール

- ①地域ストーリーコンテンツの整理、②モニターツアーハギビカケを通じて既存プログラムのブラッシュアップとガイド発掘・選定、③海外交流及び事業PR・ネットワークづくり

課題

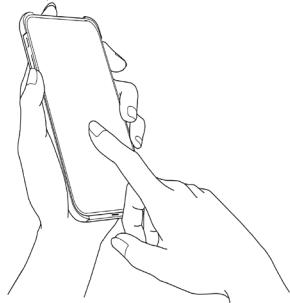
- ・スポット、スルーブロットのガイド人材の発掘と育成
- ・販売に向けた体制整備（販路構築・地域の受け入れ態勢、受入施設の拡充など）



山都町の理解促進に繋がる多言語ツール開発

多言語ツールとは

最新のトピックも！



山都町に1番詳しい案内人

旅の合間にお話しできる

次のスポットや飲食店をご提案

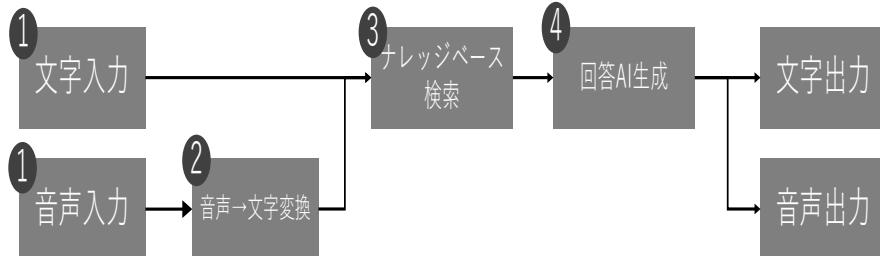
うんちくなどのユーモアを發揮する

旅のあとも連絡てくれる



10/11留学生モニターツアー時の民泊施設
もみじ屋のオーナー荒牧夫妻（両端）

山都町の旅を思い出深いものに



- ① 複数言語での文字・音声での質問入力を受け付ける
 - ② NICT(情報通信研究機構)の音声変換エンジンを利用し、音声から文字への変換及び日本語への翻訳を行う
 - ③ ナレッジベースを検索し、回答の準備を行う
ナレッジベースは各種観光情報、統計データを基に構築する
 - ④ 生成AIにて回答の作成、入力言語への翻訳を行う
- ※機能には将来的に開発するものも含む

開発スケジュール

※今年度はプロトタイプ作成を目標とし、コンテンツ整備、回答精度向上は次年度以降。

	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3
チャットツール開発			→			
ナレッジベース構築			→			
回答プロンプト開発				→		
テスト					→	

ストーリー構築プロセス

目的

有機農的暮らしの情報発信体制（オーガニックライフスタイル）構築に向けて「有機農業の里の形成過程」、「通潤橋の建設及び維持管理」、「植林及び水源涵養と水を活用した地域形成の歴史」、東アジアを含めた有機農産物（民泊提供想定）など、地域ストーリーの整理・検証・磨き上げの調査実施し、合併前の町史文献調査や郷土史伝承会へのヒアリング及び現地踏査を実施。

結果

- 有識者アドバイスを受け、地域ストーリーの**強みや得意な分野を伸ばすべく
販路開拓に向けてターゲットの絞込み。ファミリー、企業、コアファン**
- 国宝：通潤橋の源流水汲みエコツアー、治山治水の清流産の有機玄米とレシピ開発を包含する**水を軸にしたストーリーで、留学生による手応えを実感。**

インバウンド向け食品開発（民泊時の食事提供想定）

ターゲット

- インバウンドの方、日本の味を持ち帰りたい人
- 時間がなく、カンタンに食事を済ませたい人
- 災害時用の非常食となるもの
- 身体に優しいものをつくる
- 余計なものは入れない（添加物、保存料他）
- 有機玄米にこだわる

コンセプト



オールイン椀
(味噌味 鰹節 焼き米10g)

地域内連携リスト

★ : 応募者 ◎ : 連携済	活動団体の種別	所属 氏名 肩書	担当 : 役割
★ ① 山都町	地元企業	(株)山都竹琉 川部社長： 野口取締役：、荒木事務員：	<u>事業全体統括</u> <u>事業運営・管理、庶務会計</u>
◎ ② 山都町	地方公共団体	山都町役場 商工観光課 木野係長：	広報、普及啓発、熊本県・くまもとDMC事業連携 <u>インバウンド清和文楽PR兼ガイド</u>
◎ ③ 山都町	地元企業	株式会社 円(Maro)下田代表：	<u>食育コーディネーター、お茶ガイド</u>
◎ ④ 山都町	地元企業	(株)山都でしか 八田社長 榎本：マウンテンバイク 中畠：いちご農家 鳥越：山都有機農業学校校長	民泊施設インバウンド連携 <u>有機農場・畑ガイド</u> <u>いちご観光農園ガイド</u> <u>有機畑コンシェルジュ</u>
◎ ⑤ 山都町	地元企業 インバウンド民泊	一社)コバルト 管代表・谷山： もみじ屋 荒牧夫妻	<u>山都町観光ガイド・民泊（日本家屋）</u> 民泊（日本家屋）
◎ ⑥ 山都町	地元企業	カダブラ(株) 佐藤社長 福山：フィリピン駐在員	多言語ツール開発 <u>事業PR@フィリピン</u>
◎ ⑦ 山都町	農林水産事業者	山都町有機農業協議会 堀会長：	有機農業の各種体験、 <u>有機稻作体験ガイド</u>
◎ ⑧ 山都町	農林水産事業者	山都町竹資源利活用協議会 加藤：、吉岡：、上田：	<u>竹林整備体験、たけのこ堀ガイド</u>
◎ ⑨ 山都町	観光事業者	ECO九州ツーリスト(合同) 寺崎代表：	事業協力・プログラム企画、 <u>山ガイド、エコツアーガイド</u>
◎ ⑩ 山都町	観光事業者	南阿蘇交通(株)	事業協力 町内外の移動
◎ ⑪ 山都町	学校・教育機関	熊本県立矢部高校	教育ツアーモニター
◎ ⑫ 山都町	学校・教育機関	やまと高校（広域通信制）	教育ツアーモニター・スクーリング
◎ ⑬ 熊本市	学校・教育機関	熊本県立大学 学生・留学生 宮本：	企画アイデア創発、 <u>学生ガイド：台湾・西欧滞在経験</u>
◎ ⑭ 熊本市	学校・教育機関	熊本朋友子ども中国語学校 項代表：	広西南寧市民主路小学と友好姉妹校締結（桂林） <u>中国語ガイド、山都自然体験ガイド</u>
◎ ⑮ 山都町	環境コンサル	ECO・JAPAN(株) 木山社長：	<u>環境調査、バイオマス利活用アドバイザー</u>
◎ ⑯ 東京都	食育コンサル	無為自然 新居代表：	レシピ開発、 <u>食育コーディネーター（世田谷・新宿）</u>
◎ ⑰ 東京都	NPO・市民団体	NPO環境リレーションズ研究所 鈴木代表：	関係人口創出（首都圏）、 <u>植林ツアーガイド@山都</u>
◎ ⑱ 熊本市	環境団体他	公財) 地総研 宮野部長：	流域治水プログラムコーディネーター
◎ ⑲ 熊本市	学識者・専門家	熊本県立大学環境共生学部 石橋教授（地域連携研究センター長）：	熊本いどネシア協会理事、JICA専門家 環境専門家による事業連携アドバイザー

モニターツアーの様子や参加者からのFB内容と改善点

令和7年10月11日 10:00~15:00 モニターツアー参加者：留学生・学生10名



①水源地にて 治山治水
(水の流れ概略を理解)



②水源地上部の田んぼ
(利水状況を理解)



③雑草・草取り体験前説明
(無農薬稻作の現状理解)



④雑草・草取り体験後
(作業後の達成感・自分事へ)



⑤通潤橋田んぼの稻作体験
(通潤橋と水源地の繋がりを理解)



⑥稻作体験
(木村知事参加)



⑦夕食 バーベキュー
(ハラル対応、ジビエ、有機米・野菜)



⑧民泊 日本家屋
(異文化交流)

アンケート 結果

インドネシアからの留学生40代女性 F氏親子

・水源地で湧き水を飲み、草取り稻刈り、ジビエBBQも初体験でした。夕食と朝食時のハラル対応の気遣いと、ジビエのシカ肉、おいしかったです。水銀研究留学生として熊本に来ているので、研究関係者にとって本体験は、親子にとっても貴重な価値ある経験になり、通潤橋架橋の歴史や水の流れを知りたくなりました。

ガーナからの留学生40代女性 P氏

・民泊時の言語問題はスマートフォンアプリで簡単な意思疎通は可能ですが、ホストが親切だったのでもっと交流を深めたいと思いましたので、多言語ツールに期待しています。
・夕食時の場所の展望もよく、周りの音も聞こえず、人工物がほぼ見えない非日常感を味わう場所がたくさんある町だと思いました。夕方、日の落ちる時間はとても奇麗でしたので、豊かな自然を活かしたキャンプやサイクリング体験、稻の種播きから体験してみたいです。

本事業を通して実現する「保全と活用の好循環」の仕組み



9/11熊本県立大生モニターツアー
山都町散策の様子

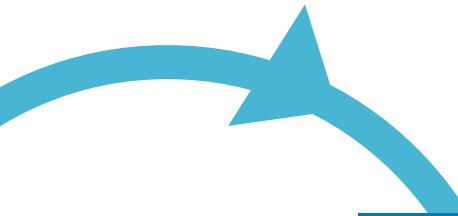
保全の具体的な内容・方法

内容

- 管理された棚田がある風景は日本の原風景そのもの
- 有機農業や無農薬の田んぼにはゲンゴロウやタガメなど水生生物が多く、野山には絶滅危惧種の日本カモシカやオオルリシジミ、希少な野草薬草が群生する自然共生エリアで良好な自然環境が現存している。

方法

- 国宝の通潤橋を潤す源流域の田んぼに入り、竹資源を活用した「かぐや米」を食べ、治山治水や水の流れの仕組みを理解し稻作体験を通じて学び、歴史と文化と大地とのつながり、都市と農村との人のつながりを実感できるプログラム「食べる、学ぶ、つながる、育てる」を軸にネイチャーポジティブ志向型の観光開発に着手。



8/30企業モニターツアー
通潤橋源流散策の様子

活用の具体的な内容・方法



- ターゲットとして環境に興味関心の高い大学や企業団体を想定して、具体的には環境系の大学や学部を中心、加えて熊本に進出するT S M Cやその家族など、ネイチャーポジティブ型のエコツアーやモニターツアーを通してプラッシュアップ。

- 熊本県をはじめ近隣自治体や大学間のネットワークを通じて、事業PRと同時に海外におけるエコツアーリサーチを行ながら、事業と親和性の高いヒト、モノ、コトを繋ぎ、熊本と関係性が深い海外（台湾・インドネシア）も含めてネットワーク化、関係交流人口の増大へ。

活用から保全への還元方法

- 「かぐや米」栽培に必須となる堆肥や竹などの竹林整備や筍堀、野草薬草の採取及び薬膳料理教室など食体験（食べる）
- 国宝の通潤橋に流れる水源地の水汲み体験と治山治水や水の流れの仕組みを理解しながらの田植え稻刈りの稻作体験（学ぶ）
- 水物語の旅として清流で育まれた農産物と水生生物や昆虫などの自然観察会や歴史と文化と大地との繋がりを実感（つながる）
- 清流米や有機農産物の産地を食べ支え、良好な環境に配慮する心の芽生えを育てるネイチャーポジティブプログラム（育てる）
- インバウンド、企業・教育機関向けの観光・研修プログラムとして活動体験を通して、金銭的かつ人員的な還元を図る。

【R8年度取組】

①多言語ツール活用ルート確立

- ・多言語化ツール整備と実装に向けて、7年度に開発した多言語ツールを使用し、必要に応じてカスタマイズ。

熊本県へのインバウンド客への利用度を上げるため、熊本県や山都町の自治体と連携協定締結した（株）くまもとDMCとの連携を強化。

想定する成果

ツール開発を行うカダブラ（株）代表が熊本県・大津町のDXアドバイザーを務めており、**熊本県は令和7年度より、知事や市長をはじめ台湾、インドネシアとの交流促進を加速化させて**いるため、事業との親和性が高く、ツールの利用度と翻訳精度が高まる効果を期待。

②農泊・体験コンテンツ拡充 ③モデルルート開発・ガイド拡充

- ・モニターツアー実施とガイド養成と同時進行でコスト消費のコンテンツ・ガイドの拡充：農泊モニターツアーを実施。
- ・ツアーチャー化に向けて自然及び農林業環境を活用した観光資源の磨き上げ・掘り起し着手（水路・石橋・棚田・滝、町中散策・マウンテンバイクなど）。

想定する成果

・ターゲットを絞りつつ**農泊モニターツアーを実施することでガイド養成も兼ねながら、山都町の良好な環境を体験できるモデルルート開発**とコンテンツ拡充。
・コンテンツ毎のガイドの資料化、ガイドトライアル、スルー・スポットガイド人材養成（棚田、有機農業、竹林、食育等）

③インバウンド受入民泊の拡充 拡充コンテンツ観光パッケージ化

- ・モニターツアー受入を通して体制構築を図りながら**インバウンド対応可能な民泊施設を増やす（2～3件/年）合計5件。**
- ・拡充したコンテンツを活用した観光パッケージ化とターゲットに合わせた販路構築

④海外大学・企業販路拡大

- ・海外調査と並行し調査実施国大使館へモニターツアーPR
- ・台湾、インドネシアを皮切りに、熊本県内に多い中国、フィリピン、ベトナムからの特定技能外国人を対象に、**同国大使館や民間企業（TSMC等）への事業PR実施**

想定する成果

大学や企業連携を通して交流を進めることで安心と信頼感があり、台湾・インドネシアは**企業インターンシップに**熊本県が力を入れているため、町県との行政連携を強化することで相乗効果が見込まれる。

R8年度のゴール

①多言語化ツール実装により**言語障壁がない受入体制**、②農泊実証、③モデルルート開発とガイド養成（R7選定ガイドの実働）、④熊本県をはじめとする近隣自治体と連携しながら販売体制の整備と受入体制及び受入施設の拡充を図り、海外からの大学関係者の受け入れを目指す。

想定される課題

恒常的な受け入れに係る地域側の受け入れ体制構築（専門知識の共有・民泊受け入れ施設の質向上・多言語ツールを活用した円滑なコミュニケーション）